

午前に引き続き市政一般質問を行います。

8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 新政会の船越洋一でございます。さきに通告をしておりました大きくは3点について市長並びに教育長に質問いたします。

まず、1点目ですが、コロナ禍の中での対馬市の経済対策について、市長にお伺いをいたします。

3年前までは韓国人観光客も40万人を超えて来島し、経済効果も約90億くらいあったと思います。それに伴い新規に店舗を開業あるいは改造をし、受入れ体制ができるよう投資されている方もたくさんおられます。現在では韓国人観光客は皆無の状態であり、それに追い打ちをかけるかのように新型コロナウイルスの感染が日本列島を襲い、対馬でも感染者が発生をいたしました。現在は落ちついている状況ではありますが、まだ予断を許さない状況であります。

対馬の経済は大変冷え込んでおり、特に飲食業、宿泊業の方々は大きな打撃を受けております。

国、県、市による支援もあってはおりますが、1年以上も続くこのような状況では長くはもたないと思われま。

今回、6月補正予算も組まれておりますが、薄く広くではなく、コロナ禍での経済を回していくには行政がさらなる支援策を考える必要があると思っておりますが、市長の考えを伺います。

次に、お船江について2点お伺いいたします。

1点目は、現在、国指定に向けて準備が進められていると思っておりますが、現在までの進捗状況を伺います。また、対馬市は他市町に比べ史跡、文化財が多く、国指定史跡文化財、特別史跡、史跡、天然記念物、重文、民族、合わせて35件あります。県指定は史跡、天然記念物、有形、有形民俗、合わせて43件あります。市指定については史跡、天然記念物、有形、有形民俗、無形民俗、合わせて124件あります。国、県、市の指定文化財は合わせて202件ありますが、これだけ多くの文化財が現存しているわけですが、後世に残す文献の整理、現地調査等多岐にわたるかと思われま。現在の文化財課の学芸員数では無理があると思われま。教育長に考えを伺います。

2点目ですが、お船江広場の公園化について市長にお伺いします。

厳原市内には子供たちがのびのびと遊べる公園がなく不便を感じている子供たちは数多くいると思いま。この件につきましては、4年前、市長に質問した折、回答では都市計画に上げて計画したいとの回答でしたが、その後、どのように進んでいるのかお伺いをいたします。

次に、3点目ですが、廃園となっている旧豆敷幼稚園跡地——これは建物も含めま。が、利活用について、市長並びに教育長にお伺いする予定でしたが、管理は現在、教育委員会ではなく、しまづくり推進部に移管されているとのことですから、市長に答弁を願いま。

この旧幼稚園は廃園となり5年くらい経過していると思いますが、現状を視察いたしました。荒れ果てて雑草が生い茂り見る影もない状況であります。建築して四十四、五年くらい経っていると思いますが、この建物を南部地域の振興の拠点として地元産品の有効活用できる施設として活用できないか、市長にお伺いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の対馬市の経済対策についてでございますけれども、新型コロナウイルス感染症拡大による対馬市の観光産業への影響及びこれまでの支援内容については、糸瀬議員の一般質問の際にお答えしましたとおりでありますけれども、それに加え農林水産業における経済対策事業として水産業の魚価暴落の影響により、出荷が低下した養殖マグロの事業者へ飼料代の一部を助成するマグロ養殖出荷調整支援事業を21業者へ助成するなど、農林水産業者向けとして経済対策関連支援事業を実施しております。また、今年度も農林水産業者向けといたしまして、魚価の低迷による事業活動に大きな影響を受けている水産事業者並びに飲食店の低迷により、農産物の販売に影響を受けている農林事業者に対しましても一時給付金を支給しております。

一方、今後の商工関係のさらなる支援策についてでございますけれども、糸瀬議員への答弁と重複する部分がありますが、今議会において、昨年度に引き続き対馬市独自の事業としまして観光業新型コロナ対策協力金の予算案を上程しております。この事業の概要といたしましては、感染症拡大防止策を講じた事業者に対して協力金を支給するもので、宿泊施設には上限を200万円とし、1部屋につき2万円を、農林漁業体験民宿には一律2万円を、交通事業者には車両1台につき1万5,000円を、飲食店、お土産、小売業、体験事業者には一律5万円を支給する内容となっております。

また、参考としまして6月16日から受付が開始されました国の目次支援金が福岡県に緊急事態宣言が発出されたことに伴い、その経済圏であることから前年、前々年度同月比で50%以上減収の飲食店、宿泊業、レンタカー、タクシー、小売店等は4月、5月、6月の3か月間分、10万円ずつの最大30万円を申請することができます。

また、本市が負担金を支出して長崎県の観光連盟が当面は県民限定で実施を予定している最大5,000円の宿泊料金半額助成事業、ふるさとで深呼吸の旅や、宿泊者に5,000円の電子クーポンを発行する対馬藩札事業、そして壱岐市との相互交流旅行商品が7月1日から開始されることになっており、市内経済の消費喚起につながるものと考えております。その他、長崎県が実施する宿泊施設と飲食店のコロナ感染対策の認証制度でありますチームナガサキセーフティーにも対馬市は参加することにしており、安全・安心体制を強化いたします。今後も国、県の事業と連携しながら、市内の事業者が継続して事業ができるよう支援事業を実施してまいりたいと考

えております。

次に、2点目のお船江について、私のほうから答えていきたいと思っております。

まず、初めに、学芸員に関する質問でございますけれども、対馬市には現在、国指定28件、県指定43件、市指定124件の合わせて195件もの数多くの指定文化財を有しております。これらの文化財は対馬の特異な地理的環境と長い歴史の中で生まれ、育まれ、守り伝えられてきた後世に引き継ぐべく貴重な財産であることはいまでもありません。このため、文化財を適切に保存、整備するための体制強化を図る必要があることから、本年4月1日付で学芸員2名を採用し、うち1名を文化財課に配置したところであります。文化財課の職員数は課長以下5名と変更ありませんが、学芸員の資格を有する職員は3名から4名となり、体制強化につながるものと考えており、さらなる業務の効率化にも努めてまいります。

また、博物館にも4名の学芸員を配置しているところでございます。

今後の文化財行政の在り方は以前にも増して文化財の保存と活用をより計画的に進めるための取組が重要になってまいります。市といたしましては保存に関しては文化財課が担い、活用については関係部局と連携することで地域振興、観光振興につなげてまいりたいと考えております。

次に、豆酩幼稚園跡地の利活用の件でございますけれども、旧豆酩幼稚園施設につきましては園児の減少による幼稚園閉園の後、平成23年4月から豆酩へき地保育所として利用してまいりましたが、保育所への入所児童の減少により、豆酩へき地保育所についても令和元年度閉園とし、現在に至っております。

本施設の活用につきましては御質問の内容を含め様々な活用方法が考えられるところではございますが、本施設は国の補助金を受けての建設であり、そのことから補助金適正化法の対象施設となっております。この旧豆酩幼稚園施設につきましては、昭和55年度に鉄筋コンクリート造で建築されており、処分制限期間についてあと19年間はその制限対象期間が残っている状態であり、施設の目的外使用を行う場合には残年数による補助金の返還、または返還額相当の基金を積み立てることが必要となります。この補助金返還につきましては、使用目的、使用者の内容により返還が不要となる場合もございますが、基本的に公的機関が公的な内容で利用する場合や、施設を無償で貸し出す場合など、返還が不要となるケースもございます。しかし、本施設は現在、普通財産となっており、普通財産の貸出しにつきましても対馬市財産の交換、譲与、無償貸付け等に関する条例があり、本条例によって無償での貸付け及び減額しての貸付けに係る要件が定められており、こちらも公共的団体の公的、公益的な使用に限られております。このように豆酩幼稚園施設は現在様々な制限がある状態でありますので、御質問にて御提案いただいております内容での利活用は難しい状況ではあります。しかしながら、今後の利活用を考えていくことも大切な取組でありますので、現在、策定を進めております厳原南部地域アクションプランの中でも

このような未利用施設の活用方法等の検討を行い、使用目的、使用者等についてもろもろの条件と照らし合わせ施設の活用を積極的に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。（発言する者あり）

お船江の公園化ですね。ちょっと待ってください。

すみません、次に、お船江広場の公園化についてでございますけれども、文化財課が現在、国の文化財指定に向けての取組を進めておりまして、その中で公園化についてはどのような形で計画できるか検討してまいります。

また、トイレの整備については必要性を感じておりまして、用地の取得も完了しましたので、早期に対応したいと考えております。

どうもすみません、以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、永留和博君。

○教育長（永留 和博君） 船越議員のお船江についての質問にお答えいたします。

国指定に向けての進捗状況についてですが、昭和44年に長崎県の史跡に指定されました厳原町久田の対馬藩お船江跡については、平成28年に長崎県史跡対馬藩お船江跡総合保全検討委員会を設置し、その保存と活用について有識者の指導、助言を仰いでいるところです。

委員会発足当初の計画では令和2年度の国指定を目指しておりましたが、その後の文化庁の指導によって現在、未指定の場所の発掘調査や文書調査等を行うことになりました。そのため、現時点では令和5年度内の国指定と指定範囲の拡張を目標に掲げているところです。その拡張の範囲につきましては、今後のさらなる調査により決定することになりますが、昨年度の発掘調査では未指定のお船江広場の一角から新たな遺構が見つかりました。また、お船江は寛文3年の築造とされてきましたが、その出典は明確ではありませんでした。昨年度の古文書調査におきまして対馬宗家関係資料の毎日記から寛文3年にお船江が存在することを確認できたのは国指定に向けて大きな前進となりました。今年度は調査結果をまとめるための作業に取りかかっているところです。

また、さらにそれと並行して主に竹林と未指定の庭園側の調査を行い、国指定の裏付けとなる調査を進めていきたいと考えております。

委員の先生方からはお船江跡は日本どころか世界にも類を見ない貴重な史跡だとお墨付きを頂いており、教育委員会としましては、今後も国指定に向けて取り組んでまいります。

また、それと並行し、日々の日常管理等も含め適正な保全、整備、活用に努めていきたいと考えております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） まず、1点目のコロナ禍の中での対馬市の経済対策についてであ

りますが、市長は対馬市の最高の執行権者であって、対馬市民の生命と財産を守るという大きな責任があると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 一応、私も市民の信託を受けて市長に当選させていただきましたので、そのように受け止めて一生懸命に努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 対馬市民の人たちが頼りにするのは市長なんです。執行権者ですから。年間320から340億の予算執行をするわけですから、やはり大きな力があるので、その市長に対して信頼を持って皆さんが一生懸命、日々努力して生活をされて税金をない中からでも払いながら生活をしておるわけですから、やはりこういうコロナ禍の中では特に市民の皆さんの苦痛というのを真剣に捉えて、どうしていくかということを実際に考えないかと思う。

先ほど市長は昨日、糸瀬議員の一般質問の折と同じ答弁をされましたけれども、私はそういうのは期待しておりません。同じことを聞くつもりもありません。違う人間が質問をしておるわけですから、もう少し先のことを答弁をしてもらわんと、同じことを答弁を聞く気持ちはありません。

今現状を見てみたときに、国、県、市のいろんな支援金は出ています。それで、まずそういうことをやられた人たちはまず一時しのぎにはなりました。しかし、今現状を見ますと、そういう問題じゃないんです。疲弊しておるんです。市長、飲み屋さんに行ったことありますか。茶屋町に行ったことありますか。人が歩いていますか。それぐらいに冷え込んでるんです。だから、そういうことをしっかりと踏まえた中で対馬市の財政の執行権者であるあなたがどうすればこの人たちを助けることができるかということを実際に考える必要があると思うんです。それについて考えをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このコロナ禍によりまして市民の皆様、そしてまた事業者の皆様が大変苦勞されてあるということは私自身も十分認識をしているところであります。そういう中で令和2年からこの令和3年にかけて市といたしましても国、県の補助をいただきながら、約17億3,000万円ほどの経済的な支援、そしてその予防対策等を行ってきております。これに1人10万円の支給を合わせますと、約48億から49億に上るのではないかなというふうに思っておりますし、大変、対馬市にとりましては大きな事業費というふうに捉えております。

ただし、これは第4波まででございますので、この後、また第5波でも来たら、本当にまたこれ財政的にも大変なことでもありますし、今現在はコロナのウイルス株もインド型のほうが結構今感染力を増してきているというような状況でありますので、ここら辺に向けても今後の感染防

止対策のほうにも万全を期してまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 言われるのはよく分かります。しかし、今、市長が言われたのは国、県、そこら辺の支援金あるいは交付金によってやられたと思うんです。市独自の生財源は幾ら出しましたか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今現在、令和2年度、3年度で約4,000万円ほどの生財源を支出しております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） こういう緊急時に今先ほど40億かれこれなるという話ですが、対馬市は生財源は4,000万円しか出してないんですね。こういう危機的な状況のときに対馬市の最高責任者であるあなたが生財源を4,000万しか出しません、これで皆さん、頑張ってくださいと言えますか。国は国なんです。県は県なんです。それはしっかり分けましょう。しかしながら、それ以外のところで対馬市の市長として対馬市民を守るためには生財源を出してもここは緊急措置ですから、1867年に大政奉還をして幕府から天皇に移ったんです。それから約154年ぐらいになると思うんですが、この間で最大の危機的状況なんです、今。それが日本全国を覆いかぶさっておるんです。このようなときに市の生財源を4,000万円出しています、それは通る話じゃない。私はそう思います。

基金を見ましょうか。市の基金というのは合併したときには640億ぐらいありましたね。ところが、今、それから17年経過して、約200億ぐらい減少しておる。大変、歴代の市長が頑張って返済してくれているからです。ところが、今、対馬市の基金を見ますと約178億あるんです。そうしますと対馬市の1年間の予算というのは今、約320億ぐらいですから、来年3月まで補正予算を組んでも約340億ぐらいになろうかと思うんですけど、しかし、その半分ぐらいの金額の基金があるんです、対馬には。こういう基金を持っておきながら生財源は4,000万しかだせません、それはちょっと市長、ないです。これだけ皆さん苦しんでおるんですから、思い切ったもう少しそこら辺は手当が要ると思います、私は。いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、私のほうがこの実績で約4,000万円程度支出ということで申しましたけども、このほかに市としての貸出し関係も当初800万円の貸出枠を1,000万円まで枠を拡大をして貸し出すようにしておりますけれども、市のほうの枠が1,000万円までだったからちょっと少なかったのかなというふうに思っておりますが、政策金融公庫、こちらのほうを多く借りられて市のほうは貸出しがあっていないというようなことも報告を受けております。

そういうことで市といたしましてはある程度できるところはそういうふうにして貸し出す準備もしておりました。

それとまたいろいろな国の交付金を受けてのこの支援策がある中で、我々はこれに乗っかってできることを一生懸命やってきたというふうに思っております。

ただ、今言われるように基金のほうは確かに177億ちょっと、今現在ありますけども、これはこれで目的も持った基金もございますし、この後またいろいろ今現在は急激な災害等がいつ発生するやもしれない、そしてまた今後この庁舎等の建て替え等についても結構な資金が必要になってくようということも踏まえまして、ここは大きな基金を崩してはいないということ御理解をいただければというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 今いろいろ言われますけど、庁舎の建設基金とか、そういうのは別なんです。今は危機的状況ですということを私は言うんです。だから、それに向かって、今、財政調整基金にしても28億あるんです。積立基金として19基金あるんです。これが169億あるんです。それから運用基金、これが4基金、9億4,000万あるんです。そういうところをしっかりと見直した中でどれぐらいお金を出していけば皆さんの心配を少しでも和らげることができるかということを考えるのがあなたの仕事です。

今、その融資の話がありましたから言いますが、この対馬市商工会関係で日本政策金融公庫に借入れをされておる方がコロナに入って172件、総額にしますと17億3,700万借入れを起こしているんです。こういうふうにしなごら皆さん日々仕事を一生懸命やっけいながら、しかしながら1年間の据置きですから、これは、3年のやつもあるでしょう、2年のやつもあるでしょう、5年の据置きつちゅうのもあるでしょう。しかし、1年据置きの人はもう今月から支払が始まってくるんです。分かりますか。そうしますと、今こういう状況の中で商売もお客さんが少なくて入りませんというときに支払いだけは期日が来ますから払わないかんことになってくるんです。そういう現状なんです。それを市に出せとかいうことを言っけおるんじやない。けども、経済対策として市長が日本政策金融公庫の長崎支店、支店長に電話を入れて、状況がこういう状況だから、今、借入れしておる人たちの1年据置きというのを2年ないし3年に延ばしていただけんかと、借換えをするとか、利子だけ補給するとか、いろいろな方法があると思う。それをするこことよってまた2年ぐらいい延びますから、その間にコロナも落ちついて来るんじやないかなとは思います。

先ほどの話を聞いていますと11月ぐらいいにはワクチン接種が終わるだろうということなんです。しかしながら、それから1年はまだまだ見ておかないと経済は戻ってきません。そうしますと、2年ぐらいいの据置き期間を置く必要があると私は思いますが、その政策金融公庫に電話を入

れて何とかこれをそういうふうにしてくれということで市長が独自で言うことはできませんか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私も担当部のほうの職員をちょっと呼びまして、まずこの経済対策のほうで議員がおっしゃられたように借換えとかそこら辺のことはどうなのかというちょっと話を聞きましたら、今現在、金融庁のほうから日本政策金融公庫のほうに柔軟な対応を取るようなというような指示があつておりますというようなことで、借換えないし、または議員おっしゃられたように条件変更等に応じてもらえることがたやすくなったのかなというふうなことを職員のほうから聞いておりますので、私のほうから政策金融公庫の長崎支店長のほうに電話でもということであれば、それは十分いたしたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） ぜひそれはお願いします。市長、ぜひお願いします。金融公庫に電話を入れてください。これは市の金を出さんでも助けるということが出来るわけですから、電話1本でできればそれが一番いいことだろうと思います。

それから、この経済を回すということになりますと、人が動かないことには経済というのはよくなっていかない。職域ワクチン接種というのは市長やっていますか。職域ワクチン接種はやっていますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まだ対馬市内のほうでは職域接種はあつていない現状です。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） ここの議会の中を見ても我々議員と議員の間は1メートル50ぐらい離れていますよね。ところが、理事者側でというのは50センチしか離れていません。これは特別に議員に配慮してあるのかなと思いますが、市長の部下の職員、家族を守るのも市長、あなたの仕事なんです。責任なんです。そういうところまで危機管理を持って職員も大事にし、家族をしっかりと支えていくにはそういうところにも言う必要があるんです。どう思いますか。私は職域のワクチン接種を呼びかけて、病院あたりはやっていると思うんです、ところがスーパーとか、特にこの市の職員530人ぐらいおられますが、やっておるところもあると思うんですけども、そういうところも職域でワクチン接種を早急に進めていく、それをするによって安心感が出てきますので、人の出入りがよくなってれば経済も変わってきます。それに集中してやるべきだと私は思いますが、どうでしょう。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 職域接種については、今現在、確か最低1,000人以上の申込みというようなことは聞いております。確かに市の職員が現在、約530名程度であります。それに家

族等と呼びかければ1,000人は超えるかなとは思いますが、まず、そこで市の職員の職域接種を先にやれば、やはり市民の皆様からはやはりそこは大きな反発も受けるのではないかなというようなことで市といたしましては集団接種、個別接種のほうに力を入れて、今現在、ワクチン接種を進めているというようなところでございます。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） やっぱり市長、そういう経済を回すにはいろいろな方法があると思う。人が動かないと経済は回りません。それは基本だと思う。今、市長が職員を先にやると一般の人たちから御批判が出るんじゃないかというような心配もされておりますが、しかしそれはそれです。職員の方たちも役所の中、あるいは現地視察に行く、皆さんと話をする、そういうのもあるんです。マスクだけをしておけばいいというもんじゃない。市の放送でも不要不急の外出は控えましょうということを奨励をしておきながら、このように人間が出らんことになってしまえば経済は回らんということは分かるとはやないですか。それに対して生財源をもう少し出してやるようなことを、方法を考えてくださいというお願いをしておるんです。よろしいですか。もうちょっと頑張ってください。

議長、私は大きな声を出しますが、興奮しておるんじゃない。

○議長（初村 久藏君） はい、分かりました。

○議員（8番 船越 洋一君） 何も言わなくて結構ですから。話にメスが入っていますから。そういうことで、ひとつ力をいれていただきたいと思います。それを皆さん待っていますので。

次に、教育長、お待たせしました。国指定のお船江の件なんですが、やはりいろいろ学術的といえますか、専門家の方を入れると大変難しい面もあろうかと思えます。だから、それはそれなりに教育長も一生懸命頑張ってください、それはそれでしっかり順序立てて令和5年ぐらいには何とかなるように力を入れて頑張ってみてください。よろしく願いしておきます。

それから、市長、お船江広場の件なんですが、広場をこれ全体的に見てあそこは広場の面積が2千何百坪かあったと思うんですが、平米数にすると、そこら辺が今、副市長はそこら辺はよく分かっておられると思うんですけど、市が買い上げた土地がありますよね。それと差引きしますとあと約660坪ぐらい残る。市が所有しておる土地をのければ。あと660坪ぐらいあります。やっぱりそこら辺も都市開発基金というのでも3億8,000万ぐらいありますので、単価については副市長がよくお分かりだと思いますからこれを買えばどのくらいになるというのはお分かりだと思いますので、そこら辺も含めた中で子供たちが、巖原市街の子供たちが車が来ないところでのびのびと遊べる公園、あるいは市長は歴史的な公園にしたいという話も前は聞きましたけど、しかし、そういうのも含めてぜひ検討していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほど教育長のほうから答弁いたしましたとおり、今現在、国の文化財ということでの指定のほうを進めているところでございます。担当課長のほうに聞きましたところ、これが指定を受けるとかなりの高補助率のほうで用地の取得も可能になるというような話も聞いておりますので、できましたらそちらを活用して用地取得等を進めていきたいというふうには思っております。その上で、今おっしゃられたように将来的な歴史公園等を目指してまいりたいというふうには思っております。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 時間がだんだんなくなってまいりましたが、要は今度は3番目、豆敷の幼稚園跡地の件ですが、これは端的に聞きます。償還期間があと19年残っておるということですが、償還金額は幾ら残っていますか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） あと19年の補助金残っている分が約335万ぐらいです。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） これが経って四十四、五年になりますとあれは鉄筋コンクリートですから60年ぐらい耐用年数があると思うんです。あと10何年かありますが、ならば、それをそのまま朽ち果てるまで置いておきますか。私が言いたいのは、要は廃園になったその建物を南部地域の振興の拠点として、その人たちがみんなで力を合わせて地域を盛り上げようという気持ちがあるのに、それをそぐようなことをするんじゃなく、それは行政も一緒になってやりましょうというぐらいの気迫が私は欲しいんです。口先で振興策、振興策、やりましょう、やりましょうと言いますが、現実的に動かないとそれは先に進みません。だんだん遅れていきます。そこら辺を柔軟に考えていただいて、335万円、これを払うのか払わないのか、伸ばせばどういふところが使えばこれは免除できるのかということも先ほど市長言っておられましたんで、どの制度が一番いいのかということをよくよく検討していただいて、早急に結論が出るようお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 冒頭、答弁の中でも申しましたように、これまでいろんな制約がございましたけれども、私のほうといたしましては実は先週金曜日に豆敷の赤米の関係で豆敷に出向いたときに私も現地を再度また見させていただきました。やはり、議員おっしゃられるようにまだまだもったいないと、このまま朽ち果てるのは。それで、また帰っていろいろと調べましたけれども、返還するじゃなくて返還額相当の基金をそこに積み立てることによって返還を免れるというふうなところもありますので、冒頭申しましたように、今後、巖原南部地域のアクションプラ

ンの中でそういった地域が活動をしていくための施策というようなことに位置づけて何とかこの利用策を実現させていきたいというふうに今考えながら担当部のほうにもその指示を出しているところでもあります。

○議長（初村 久藏君） 8番、船越洋一君。

○議員（8番 船越 洋一君） 大変いい答弁を聞きましたけれども、財政のほうもありますのでそこら辺はよくよく検討していただいて、早くそれができるように。せっかく意気込みを持ってやろうかという気持ちがある人たちの意をそぐようなことでは物はさきに移りませんので、それをよくよく担当部長とよく話をしていただいて、何とか早くなるように考えてみてください。

もう一つは、豆酩地区は今、芝桜が大変有名になってきました。お年寄りの御夫婦の方が毎年、毎年、きれいに手入れをして年間やっぱり五、六百人、今は来るようになったということなんです。だんだん明かりがついてきたなというような気もしますが、そういうところを整備することによって、そこに来た、観光に来た人たちにも寄っていただけるようなところも一つ必要だろうと思うんです、南部地域には。だから、そういうことも含めた中でどうすればいいか、それをしっかり考えて早くできるように、ひとつ御尽力をいただきたいと、このように思います。

最後に一言、いい返事を聞かせてください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今後も南部地域、特に豆酩地域のほうにつきましては、私もこれまでもいろいろ申し上げてまいりましたが、住民センターの改修も必要なところでございますし、歴史的にもいろんな史跡を持った地域であります。全体の底上げを担うためにも、今後、アクションプラン等でしっかり計画を立てながら地域振興策を練ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 何かありますか。

○議員（8番 船越 洋一君） すみません、とにかく前向きに取り組んでいただいて、早急にできるように、ひとつ御尽力をいただきたいと、このように思います。

終わります。

○議長（初村 久藏君） これで船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は2時5分からとします。

午後1時51分休憩

午後2時03分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。